



PLASTIC LOVE!

ドキュメンタリー映画

監督 シビラ・パトリチア

プロデューサー クレメンティン・ナット

情報

映画『プラスチック・ラブ!』では、日本人が愛するプラスチックの、生産から消費そして廃棄に至る複雑なシステムが大胆に探求され、生き生きと映し出される。海の底から宇宙空間まで、日本を代表する頭脳とともに、日本でこそ生まれる持続可能な発想を探す旅に出よう。私たちの、そして地球の未来がプラスチックまみれにならないように…

PLASTIC LOVE!

予想上映時間: 90分

言語: 日本語、英語

字幕: 日本語、英語、ドイツ語

撮影場所(予定): 日本、マレーシア

撮影期間(予定): 2020年7月 - 2021年3月

完成予定: 2021年5月

あ ら す じ

米、紙、陶器、布、漆、木。日本ほど永く、こういった素材と人の営みとを共存させ、その関係を自然に、社会に、あるいは工芸品に、そして精神の中にもつ文化は世界に稀です。現代の日本でも、これらの伝統は、便利さ、目まぐるしい都市生活、絶えず更新される近代化への飽くなき情熱とバランスを保っているように思われます。しかし、ある物質が、今までにないかたちで地球上の生命を脅かしています。それが、プラスチックです。

人類の歴史の中で、プラスチックほど急速に使われるようになった素材は他にはありません。1950年代以降、世界のプラスチック生産量は200倍に増加、今や合計で約80億トンに達し、これは今生きている人間1人のために1トン以上のプラスチックが生産されていることになります。今後30年で、世界のプラスチック部門の生産量は約4倍になり、世界の石油消費量の20%、年間の炭素収支の15%を占め、2050年までには海の中に魚よりも多くのプラスチックが存在すると予測されています。

食の多くを海に頼っているにもかかわらず、日本周辺の海は世界でも最悪のプラスチック汚染に悩まされています。マイクロプラスチックの数は世界の海の平均の27倍にもなり、既に地域の環境、海洋生物、そして人間の健康を脅かす存在となっています。

日本は今、材料を無駄にせず、再利用する循環型経済に向けて動き出そうとしています。しかし一方で、1人当たりのプラスチック包装廃棄物の排出量が世界2位となってしまった課題も存在します。まずは、現行のデザイン、生産、包装、使用、そして廃棄物管理のシステムといった大きな構造的な欠陥と、それがどう消費主義や、包装、使い捨てへの嗜好と関わってきたかを検証します。

日本が地球の環境問題の影響から逃れられないことは明らかです。最近では、未曾有の熱波や豪雨、多数の台風に見舞われ、「2020年世界気候リスク指数」では異常気象の影響を受ける国の第1位とされています。日本中の都市や地方自治体が公式に「気候緊急事態の真っ只中にいる」と宣言する中、プラスチックへの依存が、いかに大量生産、大量消費、大量廃棄の急増と相まって、日本と世界を持続不可能な道へと導いているかを検証します。

『PLASTIC LOVE!』は絶望ではなく希望のメッセージです。この世界的な問題を逆転させるために、日本だからこそ提案できることは何かを考えます。日本の雄大な海、山脈、穏やかな島々、そして宇宙空間をも背景に、最も刺激的な、そして創造的な日本の思想家、社会活動家、科学者たちの語りで、アートとデザイン、社会のイノベーション、あるいは深い哲学の世界に深く入り込んでゆきます。

『PLASTIC LOVE!』は、80年代のJ-POP、伝統音楽、そしてデジタルサウンドスケープを結ぶサウンドトラックをベースとした没入型の映画体験によって、日本独自の視点から世界のプラスチック問題に光を当てます。映画を通じ伝えられる社会問題へのフォーカスと、日本を代表する頭脳の声が、日本そして世界の視聴者に知識と希望をもたらし、一人ひとりが世の中を変える力になるでしょう。



100%
Maestro
100% Base

Trident
Menthol
Sour

Trident
Menthol
Sour

シビラ・パトリチア

監督 | 撮影 | 編集

www.sybillapatrizia.com

パトリチア・シビラ (Sybilla Patrizia) はオーストリア出身のドキュメンタリーカメラウーマン兼映画制作者。北インドにあるチベットのディアスポラ・2014年の香港の傘革命・日本の現代社会の可愛さ、若者らしさ、日本の桜に対する情熱や東京でのLGBTQコミュニティといった社会的、文化的、政治的な問題を取り上げている。「Unbroken」はGINZA SHORT FILM CONTEST 2019で最優秀作品賞を受賞し、2019年6月には東京のShort Shorts Film Festival & Asia で上映された。パトリチアの写真プロジェクトは世界各国のメディアに出版され、ドイツ、オーストリア、米国、日本と英国で特集され展示された。

2019年より東京藝術大学大学院映像研究科修士課程に在籍。



スタッフ

クレメンタイン・ナット

プロデューサー

www.clementinenuttall.com

クレメンタイン・ナット (Clementine Nuttall) はイギリス出身の学際的なアーティスト兼映像作家。歴史的工芸と修復の訓練を受け、彫刻、インスタレーション、そして映像を通じ、伝統文化と現代的なストーリーテリングを融合している。作品は、自然とのつながりを祝福しながら、物質のライフサイクルにおける人間の役割を探求する。



英国における展示や大学での講義のほか、英国王室からの依頼を受けた後、日本で暮らすという長年の夢を叶え、現在は東京を拠点に活動。東京藝術大学における2年間の漆の研究を経て、現在は同大学大学院のグローバル・アート・プラクティス専攻の修士課程に在籍。

田中 直人

現地プロダクション | 翻訳

田中 ジョン 直人 (Naoto John Tanaka) は東京都出身のアーティスト兼翻訳家。土地の歴史をテーマに自ら映像メディアを用いた制作を行うほか、ChimPom、久保田健二、エヴァ&フランコ・マテス、ジェイソン・ウェイトがキュレーションを担当した国際展「Don't Follow the Wind」の映像作品を筆頭に、アーティスト向けの日本語と英語間の翻訳の経験を持つ。現在は東京藝術大学大学院美術研究科修士課程に在籍。また、都内の高校で生徒にクリエイティブ・ライティングとロジカル・シンキングを教えている。

